



20250727 猪高の森自然観察会 2025年7月報告書

猪高の森自然観察だより 2025・7月号

開催日時：2025年7月27日（日）

天候：曇り時々晴 気温：最低 26.3°C、最高 34.9°C
(名古屋に於いて)

参加者：8名（内 NACS-J 会員 2名）

（左上の画像は粘菌の一種の変形体）

テーマ：テーマ：水辺の生き物たちを探してみよう！

コース：森の集会所 → 枕木道 → すり鉢池（一端解散）→ 枕木道 → 森の集会所
暑さの程度がますますひどくなり、種々の記録を塗り替えていました。

○正体不明のカメを捕まえてしまいました。

それは7月21日に行われましたイベント「猪高緑地自然体験会」で、ミシシッピアカミミガメを捕まえるために設置されたカメ罠の中にいました。

ミシシッピアカミミガメでもクサガメでも勿論イシガメでもありません。



頭にある黄色い1対の模様が特徴的です。スタッフの誰もわからず、初めて見るカメで、天白区の「なごや生物多様性センター」に持っていくことになりました。

多様性センターいわく「トマユチズガメであろう」とのことでした。

トマユチズガメは北米原産の淡水産のカメで動物食の強い雑食性です。ペットとして日本でも輸入されていた経緯があります。

環境の変化にも強い性質のため、戸外に遺棄すると定着する可能性が高く「生態系被害防止外来種（旧名：要注意外来生物）に指定されています。

「名古屋市内での捕獲は、これが初めてと思われる」とのことでしたが、生息していた事実が分かったことは「ペットの扱いとして遺棄することは行ってはならない事」でしょうし、この外来種がこの地で増えることがないように祈るばかりです。

○どこにいるのかわかりますか？



左は、ゴミグモの網の真ん中にある太い帶(隠れ帶)です。

ゴミや食べかす、脱皮殻などを集めて作ってあり、家主のクモはその真ん中あたりに陣取っています。

どこにいるのか、わかりますか？



これが家主のゴミグモです。

こちら側に背中を向けて、逆さまになって、獲物を待っています。

○カクレミノの花が咲いています。



雄花にはこの膨らみはありません

「ゲーチョキパーの木」とも呼ばれているカクレミノがしばらく前から咲いています。

カクレミノは雌雄同株で「雄花」と「両性花」の二つの花を咲かせます。

花の下が膨らんでいて「マトリヨーシカ人形」のような形をしているのが「両性花」、「雄花」にはこの膨らみはありません。

まだまだ、つぼみが沢山ありましたので、目立たない花ですが、一度ゆっくりと観察してみてください。

11月には、黒く熟した実が鳥たちの冬越しの為の大重要な食料になります。

カクレミノにはウルシ(漆)と同じ成分の「ウルシオール」が白い樹液に含まれていますので、剪定などをする時には、手袋だけでなく、ゴーグルなどを着用すると良いでしょう。

○アジサイの本当の花は？



アジサイの原種はガクアジサイです。品種改良を重ねて「テマリ咲」のいろいろな種類が生まれました。

一番目立つのは「ガク」が発達した装飾花と呼ばれる部分で、虫たちを呼び寄せる役目をしています。本当の花は「ガク」の中心にあって、ごく小さくて、目立ちません。雌しべが不完全なために、雄しべだけがわかり、種をつくる力もありません。

原種なら中心部の両性花が種を作ります。種は直径1mmにも満たない大きさで、順調に育てれば4年くらいで花を咲かせることです。

○枕木道の入り口でこんなものが大量に落ちていました。



1個を拡大するとこんな姿。

1個は長さが5ミリ程度で拡大すると、規則的な模様があります。

何かの実？種？卵？いろいろな憶測が飛び交いましたが、正体はスズメガの幼虫などの大きいイモムシの糞でした。上方の木々にきっといるのでしょうか。

細かくて小さいものも調べていくと意外なことがわかつてきます。

○カブトムシやクワガタムシがバラバラになっています。



カブトムシの頭部



ノコギリクワガタの頭部

7月に成虫になる彼らを襲って、やわらかい部分を食べ、硬い部分を残したと思われます。羽化したばかりの固まっていない時を狙っていたとも考えられます。

犯人はおそらくカラスではないかとのことでした。

○池を網でくっついてみると・・。



カダヤシのメス



モツゴ（クチボソ）の稚魚



アメリカザリガニの小さい個体

カダヤシは日本の侵略的外来種ワースト100のひとつ。特定外来生物に指定されています。この種により在来のメダカが、全滅してしまった池がこの猪高緑地にもあります。

モツゴは在来種です。「クチボソ」の俗称でよく呼ばれています。

アメリカザリガニは条件付き特定外来生物に指定されています。捕まえて飼うのは良いのですが、飼い始めたら最後は死ぬまで飼わなければなりません。

すり鉢池では、ウシガエルの声も聴かれました。

これも北米原産の特定外来生物です。飼うことはできません。

この他に スジエビやヌマエビも一緒に捕まえる事ができました。

○見られたいいろいろな生き物た



ヤブカラシの花：虫たちの大事な蜜源です



イヌザンショウの花：とても小さい



ヤブミョウガの花
まとまって咲くと見事



スズミグモ：名古屋市では準
絶滅危惧種に指定



サシガメの仲間の卵



ミカンの皮を捨てたようなキノコ：
種類は今のところ不明



アオドウガネと思われる



アカサシガメの幼虫



ミズヒキの紅白の花

8月の観察会はお休みです。

次回観察会は9月28日（日）森の集会所集合 9:30～

です。

（雷ナウキャストにて雷発生または熱中症が起こる危険のある場合は中止）

名東自然俱楽部のHPでは毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

<https://sizen.ciao.jp/>から是非ご覧になってください。

（右上の自然観察グループをクリックしてください。）